

NEWS LETTER KUMAMOTO

2015. Spring Vol. 105

■発行:一般財団法人 熊本市国際交流振興事業団

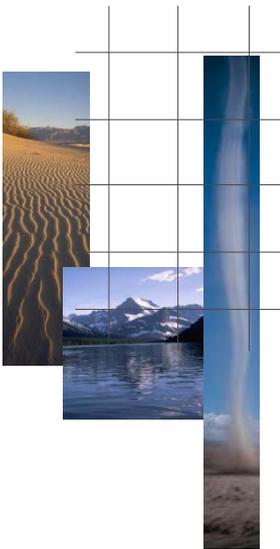
〒860-0806 熊本市中央区花畑町 4-18 熊本市国際交流会館

■Publisher: Kumamoto International Foundation

4-18 hanabata-cho, chuouku, kumamoto city, 860-0806

TEL:096-359-2121/ FAX:096-359-5783

e-mail: pj-info@kumamoto-if.or.jp URL:http://www.kumamoto-if.or.jp/



《平成27年度 国際交流振興事業団(KIF)の事業がスタートしました！》



昨年度、国際交流会館は20周年を迎え、エントランスロビーのリニューアル、フェアトレード“link”カフェがオープンしました。linkは、「We like international Kumamoto」、また、人と人、人と地域、地域と地域をつなぐ「リンク」を表しています。肥後つばきをモチーフにした可愛らしいロゴも作成しました。

今年度は、link(リンク)から、～世界と熊本をつなぐ～を合言葉に、多文化共生事業、ひとづくり推進事業、国際化推進事業、そして国際交流会館の管理運営・まちづくり・文化振興事業を展開します。

今回のニュースレターでは、各事業での皆様にチェックしていただきたいポイントを紹介します。



I. 多文化共生社会づくり推進事業

国籍や民族などの異なる人々が互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうと努力しながら、地域社会の一員として共に生きていく「多文化共生社会」の実現のため、在住外国人の方々のコミュニケーション支援、生活支援そして地域づくりを推進します。

(1) 多文化共生のまちづくりサポート

多文化共生のまちづくりを国際化の拠点施設熊本市国際交流会館で推進します。

① 多文化共生オフィス運営事業

国際交流会館2Fの同オフィスで、主に外国人市民のために多言語による相談対応や情報収集、情報発信などを行います。

(ア) 多言語相談

多言語による生活全般にわたる相談窓口の開設、法律及び出入国に関する相談、外国籍児童の教育相談を受付、アドバイスを行います。

(イ) 市政だよりの多言語化

「市政だより」の中で、生活に必要な情報を、英語、中国語、韓国語に翻訳して、事業団ホームページに掲載しています。
◆掲載時期：毎月月初めに事業団ホームページ上に掲載。

(ウ) あんしん・あんぜん 防災・生活情報

eメールマガジンの配信(外国人向け生活情報)

気象庁が発令する警報以上の天気や災害情報、在住外国人の生活に必要な情報などを、英語、中国語に翻訳しメールで配信します。

◆発信時期：毎月10日頃

◆メール登録者を随時募集。登録希望の方は

pj-info@kumamoto-if.or.jp へ「お名前・国籍・在留資格・希望言語(中国語・英語)」を記載の上、ご連絡ください。

《多言語による相談日》

言語	相談日時
英語、日本語	随時 9:00-20:00
中国語	火曜日 13:00-17:00
ドイツ語	水曜日 13:00-17:00
韓国語	木曜日 13:00-17:00
スペイン語	第1金曜 13:00-17:00
タガログ語	第2水曜 13:00-17:00
中国人のための生活教育相談	水曜、金曜 13:00-18:00
出入国管理相談	第1水曜 13:00-15:00
法律相談	第3土曜 14:00-16:00

平成27年度事業紹介・・・P1~P4

ちょっといわせてははいよ!・・・P5

未来のために・・・P6

目次

Contents

世界を知る～It know the world～・・・P7

ちょっと日本語

平成27年度賛助会員・・・P8

② 多文化共生月間事業

2月を多文化共生月間とし、月間を通して多文化共生を啓発する写真展（多言語で発行された漱石作品展）や多文化共生シンポジウムを開催します。

③ 地域サポート事業、ソーシャルワーク活動

熊本市の保健センターや児童福祉課などの要請に応じて、地域で暮らす外国人市民の元へ出向いて通訳サポートや、外国人家庭を対象にした「こんにちは赤ちゃん事業」や館外での外国人高齢者の生活保護、介護等における言語・文化通訳等、問題の解決までをサポートするソーシャルワーク活動を行うとともに、外国人市民が地域に溶け込めるように地域のイベントなどに案内するなどの活動をしています。

◆活動時期：随時（依頼による対応）

④ 医療通訳ボランティア派遣制度

平成26年度で実施した医療通訳ボランティア養成講座修了者を対象に、メディカルサポート熊本と協力し、医療通訳ボランティアを契約締結した病院へ派遣する。併せて、ボランティアの研修・育成やその他医療機関との連携等整備を進めます。

（2）日本語支援事業（日本語教育支援事業、地域日本語教室運営事業）

生活者としての外国人市民の様々な学習ニーズに対応した日本語学習教室を開催します。

① 暮らしのほんごくらぶ

日本語学習に加え、生活習慣を学ぶ機会や季節イベントなどを取り入れたボランティア主体の日本語活動です。

生活日本語支援ボランティアも随時募集です。

◆火曜日 10:00~12:00

◆水曜日 10:00~12:00、14:00~16:00、18:30~20:00

◆日曜日 10:00~12:00、14:00~16:00

② 初級日本語集中講座

日本語を正式に学んだことのない在外国人や来日したばかりの外国人を対象にした日本語の基礎文型や文法を36時間で学ぶ集中講座を開催します。

◆実施時期（予定）6月、9月、12月、3月

◆受講料：6日コース/1,000円

◆定員：10名/コース

③ 地域日本語教室（健軍教室、武蔵ヶ丘教室）

子育てや交通機関の状況等で国際交流会館への来館が困難な外国人を対象に、近隣在住の外国人市民のために開催するボランティアによる教室です。

◆健軍教室：毎週火曜日 10:00~11:30

◆武蔵ヶ丘教室：毎週火曜日 10:00~11:30

（3）外国人のための防災事業

外国人市民の方々に、日頃からの防災意識を高めてもらうために、地域の防災訓練と一緒に参加したり、多言語防災カードを配布したり、防災メールを発信します。

① 外国人のための防災訓練

熊本市広域防災センターや各地の避難訓練などに外国人とともに参加し、外国人市民の日頃からの防災意識を高めるための防災・災害訓練を行います。

◆開催時期：9月頃 ◆参加費：無料

② 災害時における語学ボランティア、外国人キーパーソンとの連携ネットワークの構築

熊本市及び近隣諸都市で大規模な災害が発生した際の災害時における語学ボランティア、外国人キーパーソンを含めた市のボランティアセンターや他県国際協会等との連携ネットワーク構築を行います。

③ 外国人のための防災ラジオ放送や防災カードの配布

熊本シティエフエムにおいて、多言語（英語、中国語、韓国語、タガログ語）による防災情報を定期的に放送するとともに、防災カードを区民課窓口等で配布します。

④ 災害メールの配信

災害発生時の警戒レベルに合わせて、災害メールを日本語、英語、中国語で配信します。

（4）外国籍の子どもの支援事業

国際結婚や呼び寄せによる外国にルーツを持つ子どもたちの増加に伴い、平等に教育を受ける権利、一人一人を大切にされた教育が受けられるよう支援団体（熊本外国ルーツの子どもたち支援連絡協議会、子ども支援ネット）と協力連携しサポートします。

◆中国帰国・外国人生徒と保護者のための進路ガイダンス 実施時期（予定）7月

◆こども支援ネットと連携し、外国にルーツを持つ子どもたちの日本語習得、教科学習支援を行う「おるがったステーション」の開催。（毎週日曜日）

◆外国ルーツの子どもたちの現状調査・研究

◆連携事業：在日外国人生徒交流会、熊本市立黒髪小学校日本語教室開校式・閉校式、熊本・外国ルーツの子どもたち支援連絡協議会研修

II. 地球市民育成事業

広い視野を持ち、世界に通用する若い世代の人材育成、自己発見、コミュニケーション能力の向上を図ることを目的とし、グローバルな視点から地域社会を理解し活動できる人材を育成します。

(1) インターンシップ受入事業

若い世代を対象にグローバル人材としての資質向上を目的に、高校や大学、そして海外の大学等からの依頼に基づきインターンシップ生を受け入れ、事業団の実施する事業の企画、運営補助活動を通じた学びを提供します。

◆募集時期：随時募集（依頼により対応）

(2) 人づくり推進事業

① 国際ボランティアワークキャンプ

高校生を対象に、2泊3日で阿蘇青少年交流の家に宿泊し、自ら考え、行動できる力を養う合宿型ワークショップを行います。

◆開催予定日：8月7日～9日

◆募集時期：6月頃

◆参加費：5,000円程度の実費

② スマイルステーション

高校の枠を超えたボランティア活動と情報交換の場を提供。

◆開催日：毎月第1土曜日

③ 青少年国際交流団体活動助成

高校生、大学生等から構成される青少年国際交流団体が行う活動に対して、申請に基づき、助成・支援を行います。

(3) 国際ボランティア/サポートセンターボランティア活用事業

各種ボランティアの募集と、ニーズにあった多様な活動機会の提供及び研修会の開催等を行います。

＜語学ボランティア、情報ボランティア＞

語学力を活かした翻訳や通訳などの活動

＜ホストファミリーボランティア＞

外国人に日本家庭の文化を体験してもらうため、ホームステイやホームビジットを通して交流する活動

＜地域国際化推進ボランティア＞

外国人市民が自国の文化や料理の紹介を行う活動

＜文化ボランティア＞

外国人に日本の文化を紹介する活動

＜生活日本語支援ボランティア＞

外国人市民の、日本語学習を支援する活動

＜サポートセンターボランティア＞

国際交流会館の1F、2Fの管理や接客を行う活動

＜学生ボランティア＞

事業団の事業サポートを行う活動

(4) 世界をよく知るセミナー

今年度は、ジャパンプレス所属のフォトジャーナリスト藤原亮司氏を講師に迎え、中東、パレスチナの現状についてお話いただきました。

実施日：平成27年4月11日（土）14:00-16:00

会場：国際交流会館 4F 第3会議室

参加者数：54名（一般48名、関係者スタッフ6名）

内容：「ジャーナリストの意義」

(6) 地域国際化推進事業（出前）

外国人市民を地域の学校やコミュニティーに派遣し、異文化講座や外国料理づくり体験などを行います。

◆実施時期：随時募集（依頼により対応）

(7) ニュースレター発行事業

国際交流や多文化共生に関する情報を掲載した機関誌、電子メールやホームページを活用し電子媒体でも発信します。

(5) 館内体験プログラム（ウォーキングガイド）

国際交流会館内で活動する事業団をはじめ、国際協力団体、フェアトレード団体、環境団体の活動や、ものづくり体験などを行います。

◆実施時期：随時募集（依頼により対応）

III. 国際化推進事業

市民主体の多彩な国際活動をサポートし、様々な講座や催し物、外国人との交流事業を通じて、海外の言語や文化を学び、市民の国際化を推進します。

(1) グローバルカレッジ事業

気軽に参加できる「まちなかのつながるキャンパス」として、「国際」をキーワードに外国語・国際交流・国際協力・歴史・異文化等、市民の興味・関心のある物事をテーマに、市民へ質の高い教養講座を展開していきます。

【外国語・外国文化】

(ア) インターナショナルサロン

熊本市国際交流員などが講師となり、日本との文化比較を日本語や英、中、韓、独、仏語などで紹介し、参加者と気軽にトークを楽しむサロンや、留学生や青年海外協力隊員の帰国報告として海外の情勢などをお伝えするサロン、また、子ども向けのサロンを開催します。

◆開催時期：毎月1回 ◆募集時期：毎月はじめの平日

◆受講料：300円（一部：無料）

(イ) 語学教室

英語、中国語、韓国語、フランス語、スペイン語、子ども向け英語クラブなどを開催します。

◆実施時期：通年（週1回の12回コース、18回コース／子ども英語クラブ、親子で英会話は、夏休み、春休みに開催。）

◆募集時期：講座開催の2か月前ごろ（前期受付終了）

◆受講料：英会話（初）14,000円、その他講座20,000円
子ども英語クラブ3,000円、親子で英会話5,000円

＜前期語学講座日程＞ 19:00-20:30 ※土曜講座は18:30-20:00

	初級	中級
英会話	5/12(火)～8/11(火)	5/12(火)～9/29(火)
中国語	—	5/12(火)～9/29(火)
韓国語	5/13(水)～10/14(水)	5/14(木)～10/8(木)
フランス語	5/16(土)～10/24(土)	5/15(金)～10/23(金)
スペイン語	5/16(土)～9/26(土)	5/13(水)～9/30(水)
イタリア語	5/14(木)～10/22(木)	5/15(金)～10/23(金)

【国際交流・その他】

(ア) ものづくり教室

県産材やい草を使ったものづくり、廃油を活用した石鹸作りなど、循環型環境の意義を学ぶとともにものを創る喜びや想像力を育てる。

◆開催予定日：5月～2月（毎月第3日曜日）

◆受講料：無料

(イ) おしゃれなワイン学（仮称）

(ウ) チョークアート体験サロン（仮称）

(エ) 切って・貼って・お絵かき教室（仮称）

(オ) その他、ダンス、伝統芸能等

◆開催予定時期：10月～

◆受講料：有料 ＊金額は未定

【多文化共生・フェアトレード】

(ア) 多文化共生社会を学ぶ連続講座（仮称）

(イ) コーヒーの美味しい入れ方（仮称）

(ウ) フェアトレードから学ぶ社会学講座（仮称）

◆開催予定時期：10月～

◆受講料：有料 ＊金額は未定

【文学・歴史】

(ア) 英語でボランティア養成講座

郷土の歴史などを正しく学び、それを英語に置き換えて学習し、観光ボランティアガイド育成する講座を開催します。

◆開催予定時期：10月～12月頃の日曜日（7～8回）

◆受講料：有料 ＊金額は未定

(イ) 熊本の郷土史講座（仮称）

熊本の先人たちの功績等歴史に学ぶ講座を開催します。

◆開催予定時期：10月～

◆受講料：有料 ＊金額は未定

（2）海外サポート事業（留学、アジアビジネス相談）

留学相談や、アジアなど海外への事業進出を考えている方の相談を行います。 ※要予約

◆留学相談：第1土曜日 13:00～15:00

◆ビジネス相談：第2木曜日 13:30～15:00

（3）NGO 協働支援事業

熊本を拠点に活動する民間団体(NPO/NGO)及び桜町界限などの街づくり団体の支援とその活動促進を図ることを目的に NGO に対し、助成を行います。その他、国際交流会館1、2階の展示スペースやイベントスペースを無償提供、運営サポートを行います。

（4）イヤードパーティ事業

学生ボランティアの企画運営で外国人市民と一緒に音楽やゲームで国際交流を行う立食パーティを行います。

◆開催時期：12月上旬の週末

◆会費：大人 2,000円/学生 1,000円 ※小学生は無料

（5）韓国ホームスティツアー事業

東アジアとの共生が強く求められる中で、特に隣国韓国との相互理解と友好交流を促進するために、韓国の家庭にホームスティを行い、韓国の方々との草の根交流を行います。

◆実施時期：10月～11月頃

◆参加費：渡航費並びに、実費が必要。

（6）グローバルワークキャンプ事業

大学生を対象に、3泊4日で阿蘇青少年交流の家に宿泊し、海外の若者たちと触れ合い、交流し、共に学び、グローバルな人材の育成を行う宿泊型ワークショップを行います。

◆開催予定日：8月16日～19日

◆参加費：7,000円程度の実費 ◆募集時期：6月頃から

（7）日韓グローバルインターンシップ事業

韓国で日本語を学ぶ学生たちが、熊本で日本語の研修やインターンシップ活動を行うための受入れを行います。

◆実施時期：5月～8月、6月～9月、10月～1月、2月

（8）日本文化体験事業

外国人市民を対象に、着物の着付けや、野点など茶道の体験を行います。

◆実施時期：10月中旬の週末 ◆募集時期：9月

（9）海外紹介事業

海外の観光などの魅力の紹介や、海外の食と文化をテーマにしたシリーズ企画を行います。

◆実施時期：9月～12月（4回シリーズ）

◆募集時期：それぞれ開催月の1ヶ月前

IV. まちづくり推進事業

文化施設の管理運営及びその施設を拠点とした熊本らしいまちづくりの推進・文化芸術を振興します。

（1）会館管理運営事業

最大許容数 230 席の大ホールをはじめ、16 の中・小会議室の貸出や、施設管理を行います。

◆募集時期：利用日の 1 年前から受付開始

（2）オープンセンター事業

国際交流会館をもっと多くの人に知ってもらうために、楽しいイベントを実施します。

① ものづくりフェア

毎月開催している子供向けのものづくり教室の集大成として、過去に作成した作品等を一堂に作成するイベントを開催します。

◆開催時期：8月頃

② オクトーバーフェスト

ドイツの秋を代表する収穫祭「オクトーバーフェスト」を熊本でも楽しんでもらうために 10 月に開催される「城下町おおにぎわい市」の開催時期に合せ行います。

◆開催時期：10月頃

③ 第2回熊本アートフェスティヴォ

熊本のアーティスト発掘並びに地域振興を目的に開催します。

◆実施時期：11月頃

（3）子ども日本舞踊教室

日本人や外国人の子供向けに、日本舞踊や茶道、着付けを体験できる連続講座を開催します。

◆開催時期：5月9日～1月23日(月2回)の15回コース

◆発表会：平成28年1月30日(土)

◆参加費：入門コース3ヶ月/6ヶ月 1,000円

◆申込み受付：4月～

（4）世界音楽交流事業（ちきゅう音楽交流広場）

音楽を通じて日本（熊本）の伝統的な音楽と世界各国の音楽との融合・交流を図るコンサートを開催します。

◆開催時期：12月頃 ◆募集時期：11月 ◆参加費：無料

（5）レンタサイクル事業

気軽に利用できるレンタル自転車の貸出を行います。

◆利用料：26インチ自転車 300円より、

20インチ電動アシスト付自転車 500円より

（6）フェアトレードステーション

フェアトレード啓発を目的に“link cafe(リンクカフェ)”を運営します。フェアトレードコーヒーや紅茶、またフェアトレード、地産地消、障がい者作業所の産品販売、そしてフェアトレード啓発セミナーやフェアトレードマルシェ等も開催します。

「一生で一瞬」

中国国際交流員 (CIR) 何 超さん

一年前の桜の季節に

「さくら ひらひら 舞い降りて落ちて
春のその向こうへと歩き出す
君と春に誓いしこの夢を
強く胸に抱いて さくら舞い散る」

大好きな「いきものがかり」さんの曲を聴きながら、車窓越しで外を見ていた。まるで春を名残惜しむようで、柔らかくて可愛らしいピンクがまだ少し枝先に残っていた季節だった。初めての海外生活、初めての日本。そして、初めての熊本。今まで教科書やドラマの中でしか見たことのない和の国の景色が、まさに目の前に広がっていた。ともなく落ち着かないのは、期待と不安、半分半分。「これからの一年間、どんな生活になるんだろう？」と。

初めてばかりの 365 日

初めての一食は、「伝」のラーメン。しょっぱかった。でも店長の微笑みが記憶に残った。それ以来、常連になった。初出勤日は国際室二番目の早さだった。朝礼のとき、局長をはじめとするシティブロモーションの皆さんが総出で歓迎の挨拶をくださった。皆の名前が基本三・四文字多いので、暗記するのは一苦労。未だにまだその場ではっきりといえない名前もあって、ほんとに申し訳ない気分。しかし、みんなそれぞれ個性豊かで面白い方なので、笑いの絶えない楽しい職場の毎日であった。「早速ですが、何さんをお願いします」いよいよ待望の初仕事 came。それは中国お客さんの受け入れ事業だった。卒業してから日本語がずっと真空保存状態だった私が、思う存分に恥をかいたのは市長表敬の時。緊張しているこというともあったが、生半可の日本語で一生懸命市長の意思を伝達しようと身振り手振りでどたばた。焦っていた僕に気付いてくれた幸山市長。談話のスピードを落とし、短くてわかりやすい内容に変えてくれた。そして後ろで待機している同僚の皆さんが、拳を握って応援しているのが目に見え、ようやく気持ち落ち着かせ、後半を何とか収めた。初めての仕事、不合格だと自ら判定を下した。すでに死んでいたつもりの学習意欲が再び燃え上がった。その後、初阿蘇の驚嘆、初馬刺しの躊躇、初文化サロン・月1サロンの笑い声、初料理教室のどたばた、初学校訪問での中国パーティー、初「火の国祭り」の踊り、初マラソン……いろんな初経験や出来事が、僕の在熊 365 日間の冒険書を書き添えた。



日本の子ども達と

感謝の気持ち

人間が生きていくためには、三つのものが必要不可欠だと、僕は常に思う。それは未来への「夢」、過去の「思い出」、そしてこれらを繋いでいく今の「絆」。人生の中でそうそう手に入らないものを、自分はこの一年で全部手に入れた。日本に来たばかりで心細かった私に、「お帰りなさい」って言ってくれたホームステイの家族。仕事であれプライベートであれ、僕のことを弟のように世話をやいてくれた市役所の先輩たち、一緒に遊びに行ったり馬鹿なことしたりして楽しんでいた CIR の三人、いつも笑顔で優しく接してくれた会館の皆さん、そしていろんな場面で出会った熊本の友人たち。この一年間、様々な形で僕の人生を彩ってくれたすべての皆さんに感謝の言葉しかいえない今。



CIR の仲間達と

桜とともにバイバイ

再び、桜の季節が訪れた。ほんとに「あっ」という間。最近の職場は、「送別」の雰囲気漂い始めた気がする。近くの席の同僚たちが前より何倍に優しくなり、「何くん、今日のお昼予定ある？ ないなら一緒に食べに行こう」との注文も多くなってきた。時に、一回しか共に仕事した事のない人が突然現れ、別れを告げようとするこも増えた。嬉しさと寂しさ、半分半分。「一期一会」「袖振り合うも他生の縁」「会うは別れの初め」などなど、最近よく耳にする言葉。日本語って案外、こういう切ない表現が多いなあって感嘆した。すっかり慣れ親しんだ日本・熊本の生活にあと一ヶ月でバイバイ。長いようで短い一年間。今年、花火大会が復帰するそうだ。残念ながら、僕とはすれ違いになりそうだ。また、山鹿の灯籠祭も見に行きたい。ほんとに、皆さんと一緒にやりたいことや見たい景色はまだいっぱいあるのに。「日本の女性と結婚して熊本で一生暮らしていきたい」最初の戯言は、今は本音となる。

「さくら、さくら、いざ舞い上がれ
永遠にさんざめく光を浴びて
さらば友よ またこの場所で会おう
さくら舞い散る道の上で」

またいつかかならず帰ってくると、心の中に誓った。皆さんとの絆や思い出が消えない限り。その時、いつも通りの笑顔で「久しぶり」って声をかけてください。



未来のために

ここでは、私たちの未来を考える上でとても重要な視点である共に生きる社会、多文化共生について専門家である羽賀友信さんにシリーズでご寄稿いただいています。



筆者：羽賀 友信さん

- ・長岡市国際交流センター「地球広場」センター長
 - ・新潟 NGO ネットワーク顧問
 - ・JICA 地球ひろば 国際協力サポーター
 - ・長岡市教育委員
 - ・JICA 専門家
- ※当事業団多文化共生アドバイザー

熊本の海外観光戦略の可能性

現在、地方創生の動きとともに、少子高齢化と人口減少による地域の疲弊の問題が大きくクローズアップされています。他方、日本を訪れる外国人観光客の数は、年間 1,300 万人を超え、日本の持つ地域資産や文化などの価値の見直しが始まっています。

地域を見ると、全国的に在住外国人の数は、減少傾向（九州においては増加傾向）にあります。定住化、永住化は進んでいます。定住者、永住者は、長期的な展望を持ち、ローンを組む、家を建てる、車を購入する、子どもの教育に投資するなど、消費活動の面においても地域経済に貢献しているほか、経済活動においても地元企業を支えていたり、地域福祉の面においても大きな影響を与えています。

観光戦略においても、彼らが地域の担い手として貢献すると、大きな可能性が見えてきます。通訳、翻訳等にも力を発揮できるほか、異文化の視点から日本や地域の魅力を発信してくれることが考えられるのです。

また、移動人口としての観光者も、ゴールデンルートと呼ばれる東京や京都を中心とした伝統的な観光ルートだけでなく、リピーターは、地方の原風景や小さな観光地に興味を持ち始めています。大都市中心の観光戦略だけではなく、地方の固有性を生かした観光地の発信が大きな課題になってきているのです。特に LCC（格安航空会社）の発展とともに、アジア圏からの旅行者は、東京に飛ぶよりも近く、安い九州にメリットを感じています。

熊本に的をしばってみると、阿蘇の火山、温泉、祭り、赤牛、馬肉、有明海の新鮮な海の幸、からし蓮根などの郷土食、地下水を活用したおいしい水道水、熊本城を中心にした歴史文化、蒸留酒の代表の焼酎、醸造酒の代表の日本酒もおいしいものがたくさんあり、ここにおもてなしの心を活用すれば、非常に魅力あふれた観光戦略が立てられます。さらに別の視点から見れば、医療観光なども新しいジャンルとして大きな可能性を含んでいます。

また、3.11 以降、アジアからの修学旅行が 80% くらい増加したというニュースを聞きました。その多くは都会観光だけではなく、地方で日本固有の体験型の観光を楽しんでいます。都会では持ちえない、地方にしかない資産を徹底的に活用し、どう発信し、どう受信していくかという戦略が問われているのです。

もう一つの可能性が、留学生の受け入れです。現在、留学生のほとんどはアジアを中心とした途上国や中進

国から来ており、欧米からの留学生の数は伸びていません。しかし、短期で日本の文化を学びながら留学したい学生はかなりの数に上っており、短期留学制度をギャップイヤー（高校卒業後、大学入学までの間にボランティアやインターン、国内外留学をすること）と組み合わせると、可能性は大きくなると思います。

これまで量的な可能性の話を進めてきましたが、日本の強さは質的な深さをもった文化があるということです。ロシアなどで日本語を勉強する人たちの中には、日本人が理解できない古典をかなりのレベルで習得している人が多くいます。またフランスやドイツなども日本の伝統文化に深い造詣の念を持っており、さらに踏み込んだ観光の必要があります。

団体旅行中心から個人旅行へとシフトが進む中で、地域が考えなければいけないことは、彼らがどう情報をとり、どう行き先を決め、どう移動するかということ深く掘り下げることです。

たとえば、Wi-Fi を整備し、多言語で観光情報を入手しやすくする、居酒屋や食堂のメニューを写真で表示する、郷土料理を Wi-Fi で検索すれば多言語で表示される、移動手段としてのバスは路線ナンバーを入れ、ステーション名を日本語が理解できなくてもわかるようにナンバーで表示する、また外国語通訳や言語になるべく頼らずに観光ができるように、ピクトグラム（絵文字）などの普及を進め、ユニバーサルデザインを中心に据えるといった政策が必要になってきます。

これらは多文化共生の推進というジャンルに組み込まれることですが、外国人にやさしいまちづくりを進めるということは、お年寄り、子ども、障害者にもやさしいまちづくりになります。

長岡市でも中越地震以降、中山間地の集落に JICA 研修員や外国人研修員の受け入れを進めてきましたが、一番喜ばれるのは、ホームステイと、地域の人々との「どんちゃん騒ぎ」という交流活動です。お互い言葉は通じなくても、心は通じるという大切な財産を手に入れ、短い滞在でも別れが辛くなるような密度の濃い交流ができます。過疎地では若者が減り、活気がなくなっていますが、こうしたおもてなし交流を通してお年寄りが地域の誇りと自信を取り戻し、今では「ぜひ海外からのお客さんを紹介してください」と頼まれるまでになっています。ここにも大きな観光のヒントが見られます。熊本は、地理的にも日本のゲートウェイになれる可能性が大きな地域だと思います。



世界を知る ～It know the world～

このページでは、「世界を知る」をテーマに独立行政法人国際協力機構(JICA)デスク熊本や、国際交流・協力分野で活躍している皆さんのご協力を得て、日本で生活する私たちには日常知ることができない興味深い世界の状況を紹介しします。

憎しみは憎しみによって止まず、ただ愛によってのみ止む

青年海外協力隊 OG 川口 純子さん

(平成 25 年 1 月～平成 27 年 1 月 スリランカ派遣 職種：環境教育)

日本から直行便で約 10 時間。インド洋に浮かぶ常夏の小国スリランカは、原始仏教の教えがいまだ残る数少ない国。約 7 割が仏教徒とされ、日々「ピン」と呼ばれる徳を積みながら、笑顔の耐えない穏やかな暮らしを営んでいます。



キャラニヤ寺院の様子（コロンボ市）

名前だけ聞いても私たち日本人には決して身近とは言えない国ですが、現在の日本はこの国のおかげで存在していると言っても過言ではないことをご存知でしょうか。

そのできごとは、第二次世界大戦後の 1951 年 9 月。日本の主権回復を巡って開かれたサンフランシスコ講和会議で、ひとりの若きスリランカ人政治家のスピーチによってもたらされました。

この会議に現在のスリランカ、当時のセイロンの代表として J. R. ジャヤワルダナ蔵相が出席していました。戦時中はセイロンも英国の支配下にあったため、日本から攻撃を受けていたからです。そのような立場にしながら、ジャヤワルダナ氏はこう言います。

「憎しみは憎しみによっては止まず、ただ愛によってのみ止む」

仏教の法句経の一部を引用、日本に対する賠償請求を放棄しました。同じアジア人として欧米の支配下

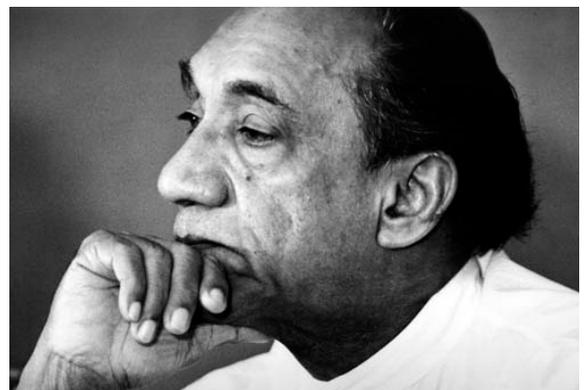
になることなく戦った日本を尊敬していたようですが、まずは同じ仏教国として長い歴史や文化を持った仲間だという強い思いがあったからこそ出来た決断だったのでしょ。

このスピーチは、会議に出席していた国々の賛同を得、日本が国際社会に復帰するきっかけとなったと言われています。

以来、日本とスリランカは断続的に友好関係を持ち、日本は ODA 支援も行っています。

スリランカでは皆このことを知っており、親日家も多いのですが、日本ではどうでしょう。私も協力隊に参加するまで、この事実を知りませんでした。自分の無知を情けなく思ったほどです。スリランカで過ごした 2 年の任期中、人々の優しさに触れるたびに気づけば『スリランカに恩返しを』と考えながら活動している自分がいました。

スリランカ、ジャヤワルダナ氏、そして仏教がつかないだこのあたたかい縁。そして希望をなかなか見出せない殺伐とした“いま”を生きるなかで得たこの縁。長い間つながってきたこの縁をさらに未来へつなげていくための生き方こそ、これから私がすべきことだと感じています。



J.R.ジャヤワルダナ氏

(出典：VivaLanka.com HP)

ちょっと Japanese Tip
日本語

NPO 法人日本語サポートあさ
代表 小川 ひろみ さん

漢字を教える

最近の傾向として非漢字圏からの日本語学習者が全国的に増えています。日本語学校等では中国 3 割、ベトナム 4 割、ネパール 2 割、その他 1 割の構成はめずらしくありません。そこで非漢字圏日本語学習者に漢字をどう学ばせるか改めて関心が寄せられています。まず意味を教える時は漢字の構成要素に注目し「物語」を作ります。たとえば、「親」は「立って木を見るそれが親」これは演歌の歌詞にもあります。これに慣れると学生たちは漢字の「ストーリー」を知りたがり漢字の意味を楽しみながら覚えることができます。形は「校」を「木交」のように書かないために原稿用紙など升目に最初から書かせるようにします。そして漢字を単独でなく文の中で繰り返し運用しながら使い方に慣れるよう指導します。漢字は最初絵にして、それから物語にして学べば基本漢字 300 程度はあっという間です。漢字ストーリーを創作して、外国人留学生たちといっしょにちょっと漢字を楽しんでみませんか。

インターネットではもっとたくさん紹介しています。
<http://blog.goo.ne.jp/kifblo>

きふプロ インターンシップ生、サポートセンターボランティアの皆さんが観るKFのアクティビティ

インターン生の熊本学園大学 2 年 左座と岡崎です。今回、「外国を知ろうサロン」に参加し、カナダと韓国とドイツの学校事情のお話を聞きました。当たり前前のことではありますが、国によって学校の制度が違い、実際に話を聞いて思わず「へえ～」と言葉が漏れることが多々ありました。学校制度も二学期制のところや、州ごとによって休み期間が違うなど、サロンに参加して海外の学校事情を知ることが出来てよかったです。



国際交流会館では、外国語サロンや留学生サロンなど毎月様々なサロンを開催しております。ぜひご参加ください。

☆平成27年度賛助会員募集！☆

一般財団法人熊本市国際交流振興事業団では賛助会員を募集しています。当事業団の活動にご理解とご支援をいただくと共に、さらなる国際交流や国際協力の輪が広がることを願っています。

会員の方々には、事業団の機関誌『ニュースレターくまもと』の送付や様々な情報の提供をさせていただきます。また、当事業団主催講座の受講料会員割引特典や、国際交流会館駐車場の割引もあります。

- ①個人会員 一口 2,000 円/年(一口以上)
- ②団体会員 一口 10,000 円/年(一口以上)

平成 27 年 3 月までの会員期間となります。

<入会のお申し込み・お問い合わせ>

一般財団法人 熊本市国際交流振興事業団事務局
〒860-0806 熊本市中央区花畑町 4-18 熊本市国際交流会館
TEL:096-359-2020 FAX:096-359-5783
E-mail:ad-info@kumamoto-if.or.jp

私たちは熊本の国際交流活動を応援しています！

〔法人会員〕 ・ 学校法人君が淵学園 崇城大学

継続・新規ご加入 ありがとうございます。

(平成 27 年 4 月 30 日までにご加入いただいた皆様)

〔個人〕 50 音順 (敬称略)

安藤 宗憲	大館 晴子	河上 真弓	近藤 美紀	世利美保子	戸山 美緒	原 章子	松野二三雄	安岡 洋美	淀川 真央
石崎 智美	岡崎 和也	河上 楯夫	近藤よしこ	桧山美沙代	中尾 達也	原口 賢一	松本亜由美	安武 邦人	鷲見幹奈子
石原 林子	緒方真由美	川津 紀子	坂井 菊子	相馬佳代子	中村 啓一	開 藍加	松本 尚子	山内 紘子	曾我 優妃
位寄 景子	岡村 圭	河野 寿美	坂井 里衣	大尾 律子	中村伸一郎	平田由美子	三島三恵子	山下 美奈	木下 純宏
岩田 洋子	岡本 里織	木上 浩	澤田多哉子	滝口 靖憲	中村 由紀	福島真理子	光永 京子	山田 京子	木下 時夫
岩廣 有紀	小川 理恵	木村 志穂	三藤有希子	竹内 純	西 二郎	古田 京子	宮副 京子	山田真梨子	
内田 ゆか	小野 順子	蔵本 剛	茂田小百合	武富 香	西田めぐみ	前川 祥乃	毛利恵理香	山本真安葉	
内山 和代	小野原浩子	黒田 朝陽	島田 一浩	田代 素子	早川 満久	前田 美紀	持木 美恵	養父ゆかり	
浦田 和美	金子 政利	桑野 光朗	鈴木 陽子	辻 ミチ子	林 明彦	益田隆一郎	本島 沙知	吉川 淳子	
王 士杰	辛島真由子	古賀三香子	鈴木 立子	鶴田 みか	林田 尚武	松田房二郎	盛谷 佳代	吉村 洋子	



- 阿蘇くまもと空港より 車で 45 分
- 熊本交通センターより 徒歩 3 分
- 熊本市電花畑町より 徒歩 3 分

from Aso-Kumamoto Airport-
45minutes by car

from Kotsu Center-3minutes walk

from "Hanabata-cho"
tram stop-3minutes walk

熊本市国際交流会館 国際交流サポートセンター

開館時間 午前 9 時～午後 8 時

多文化共生オフィス TEL:096-359-4995 (直通)

休館日 第 2・第 4 月曜日、年末年始 (12 月 29 日～1 月 3 日)

Civic Support Center for International Exchange and Cooperation
Kumamoto City International Center
Service Hours 9:00a.m. -8:00p.m.
Multicultural affairs office Phone:096-359-4995(Dial-in)
Closed: 2nd and 4th Mondays of each month, Dec. 29th-Jan. 3rd